

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病害虫発生予察情報について

令和元年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

令和元年度農作物病害虫発生予報第8号

令和元年9月2日
徳 島 県

I. 普通作物
普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が5.6%、発病穂率が0.0%と、平年(25.5%、0.5%)に比べてやや低い。
- (2) 8月第6半旬に県西部(美馬市、東みよし町、三好市の10圃場)で行った葉いもち発病調査では、発生圃場率が40.0%、発病度が2.3であった。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が68.4%、発病度が5.0と、平年(64.5%、6.0)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するよう、株元をねらって散布する。
- (2) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認(収穫14日前までの剤が多い)し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が26.3%と, 平年(9.7%)に比べて高いが, 株当たり寄生虫数は0.03頭と, 平年(0.07頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し, 1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う
- (2) 本虫は株元に生息しているので, 薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても, 降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が36.8%と, 平年(21.9%)に比べてやや高いが, 上位2葉の被害葉率は0.2%と, 平年(0.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が5.7%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査でも, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数
8月第1~5半旬における勝浦町での予察灯調査では, ツヤアオカメムシは平年に比べて少なく, チャバネアオカメムシは平年並で推移している。上板町では, ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシともに平年に比べてやや少なく推移している(表1)。
- (2) 8月第6半旬のカキにおける巡回調査では, 被害果確認圃場率が16.7%と, 平年(8.7%)に比べてやや高いが, 被害果率は0.2%と, 平年(0.2%)並である。

表1 勝浦町および上板町における各カメムシの誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

| 月・半月 | 勝浦町 | | | | | 上板町 | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|----|
| | 2019年 | 2018年 | 2017年 | 2016年 | 平年 | 2019年 | 2018年 | 2017年 | 2016年 | 平年 |
| 8・1 | 79 | 773 | 293 | 32 | 189 | 4 | 48 | 9 | 3 | 9 |
| 8・2 | 57 | 725 | 346 | 66 | 195 | 1 | 57 | 15 | 1 | 11 |
| 8・3 | 欠測 | 2400 | 494 | 101 | 396 | 2 | 89 | 68 | 8 | 21 |
| 8・4 | 79 | 446 | 564 | 37 | 194 | 4 | 57 | 60 | 8 | 18 |
| 8・5 | 19 | 241 | 359 | 107 | 129 | 6 | 55 | 84 | 10 | 18 |
| 8・6 | | 392 | 85 | 93 | 107 | | 16 | 77 | 64 | 24 |

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

| 月・半月 | 勝浦町 | | | | | 上板町 | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|----|
| | 2019年 | 2018年 | 2017年 | 2016年 | 平年 | 2019年 | 2018年 | 2017年 | 2016年 | 平年 |
| 8・1 | 86 | 109 | 81 | 26 | 92 | 4 | 22 | 19 | 4 | 23 |
| 8・2 | 116 | 277 | 169 | 33 | 130 | 4 | 23 | 20 | 3 | 18 |
| 8・3 | 欠測 | 297 | 149 | 54 | 119 | 15 | 59 | 72 | 10 | 33 |
| 8・4 | 183 | 466 | 255 | 73 | 172 | 17 | 89 | 79 | 6 | 31 |
| 8・5 | 117 | 672 | 388 | 143 | 206 | 24 | 150 | 105 | 19 | 38 |
| 8・6 | | 1191 | 194 | 152 | 271 | | 94 | 127 | 55 | 47 |

(2)高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月第6半月の巡回調査では、発生圃場率が88.9%と、平年(59.3%)に比べて高いが、発病葉率は5.3%と、平年(8.6%)に比べてやや低い。
- (2)高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月第6半月の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が0.2%と、平年(61.5%、3.1%)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%, 寄生葉率が0.2%と, 平年(41.9%, 2.1%)に比べてやや低い。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので, 防除の際には, 葉裏に十分な量の葉液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ (7月30日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%と, 平年(44.4%)並の発生であるが, 50株当たり虫数は1.3頭と, 平年(2.8頭)に比べてやや少ない。
- (2) フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において, 7月第3半旬より誘殺数が増加し, 7月第3半旬~第5半旬の誘殺数が406頭と平年(102頭)の約4倍となったことから, 7月30日付けで注意報を発令した。その後も, 平年に比べて多く8月第1~5半旬の誘殺数は605頭と, 平年(402頭)の約1.5倍誘殺された(図2)。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも, 被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず, 確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり, 食害して葉の内部に潜むようになると, 薬剤による防除効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫期に防除を行う。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては, フェロモン剤による防除が効果的であるので, 適切に使用する。
- (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので, 早めに交換する。

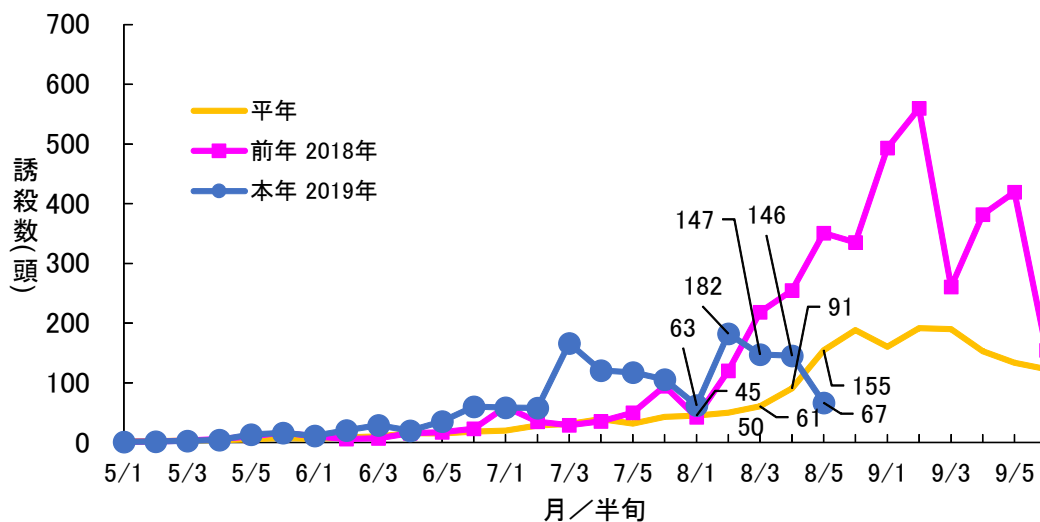


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、被害度が0.8と、平年(39.5%、1.5)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(91.9%)並の発生であるが、被害度は4.6と、平年(14.8)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査9圃場の平均)は140.2頭と、平年(136.5頭)並の発生である(図3)。

(2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

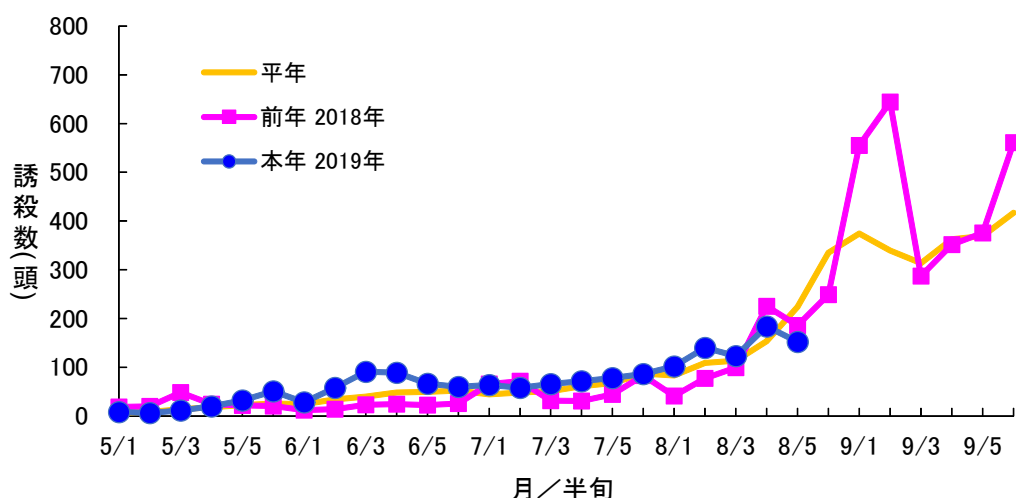


図3 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ (7月30日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において、7月第3半旬より誘殺数が増加し、7月第3半旬～第5半旬の誘殺数が406頭と平年(102頭)の約4倍となったことから、7月30日付けで注意報を発令した。その後も、平年に比べて多く8月第1～5半旬の誘殺数は605頭と、平年(402頭)の約1.5倍誘殺された(図2)。

(2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) フェロモントラップの定点(6地点)調査において、7月第5半旬からの誘殺数はほぼ平年並に推移している(図4)。

(3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、特に期間のはじめは降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

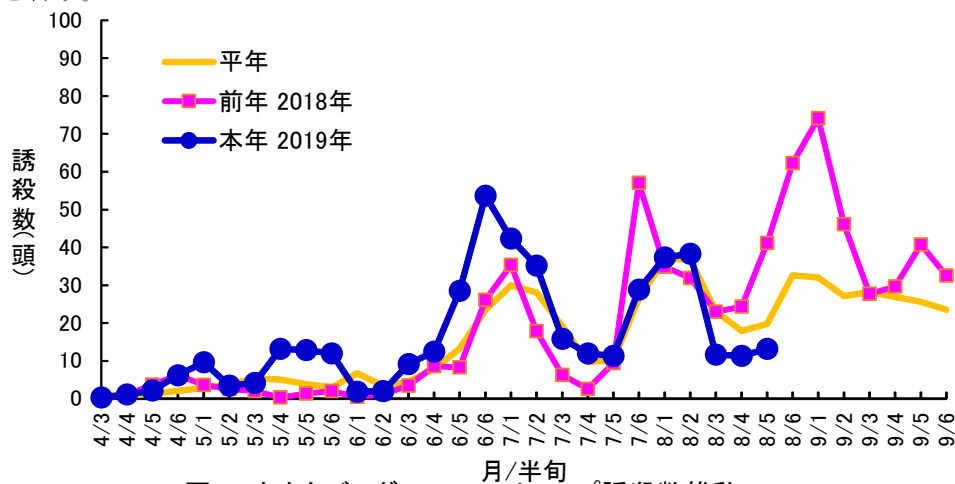


図4 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。

